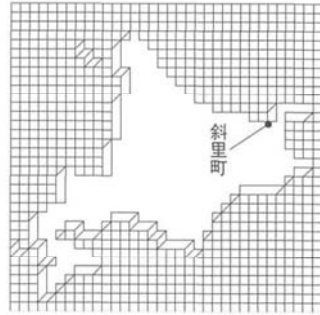


連載



斜里町の概況

斜里町は、北海道の最北東部に位置し、北はオホーツク海に面し、町域としては東西五〇km、南北五〇km、知床岬へと延びる海岸線は一〇〇kmにおよび、全体として弓状の三角形で、総面積七三六・九六平方km、人口一三、三八五人(二〇〇五年一月現在)を有する。主たる産業は、寒冷地作物(馬鈴しょ、てん菜、小麦)

あのマチ
このムラ
・地域おこし活躍中

No.40

斜里町の事例

— みどりと人間の調和を求めて —

を主体とした農業、鮭鱒を主体とした漁業、並びに年間約一五六万人の入り込みを数える観光である。

地勢は北に一〇〇kmを越える海岸線、北東に知床連山、南に清里町、西に小清水町を擁している。気温は年平均七度以下である。積雪量はさほど多くないが、融雪時期が遅く、六月中ごろまでフエーン現象による南東の強風が吹きつける。

歴史を見てみよう。開拓時代

一八七二年、斜里郡の村名が定められ、アラシマイ村、ヤンベツ村、シャリ村、シマトカリ村、ヲネベツ村の五カ村が誕生した。一八七七年には斜里浦役場が設置され、斜里町農業開拓の先駆者と言われている鈴木養太が入地した斜里村亦上一番地で初めてこの地に開拓の鋤を打ち下ろした。

大正時代の大きな変化は、電話架設であった。また、一九二二年から工事に着手していた釧

網線が一九二四年に部分開通し、翌一九二五年に待望の鉄道が斜里まで開通した。現在の斜里町の基幹産業である漁業は戦後の漁田開発を中心に今日ある一大漁業基地をつくりあげた。一九四七年から公共事業で魚田開発が進められ、漁港施設の拡充などを積極的に進めることにより、サケ定置網漁業を中心に躍進を続けている。

自然保護に関し、一九六四年、知床半島が全国で二三番目の国

立公園に指定されたことを契機に、知床の自然を町民全体で守るべき貴重な財産としての認識が深まった。一九七七年には、

国立公園内の民有地を買い上げ、知床の大自然を守ろうと、「知床一〇〇平方メートル運動」がスタートした。この運動は、日本におけるナショナル・トラスト運動として、国際的にも高く評価されている。「知床一〇〇平方メートル運動」は、一九九八年、四万九千人の協力で初期の目的を達し、一九九七から新しく「一〇〇平方メートル運動の森・トラスト」がスタートした。

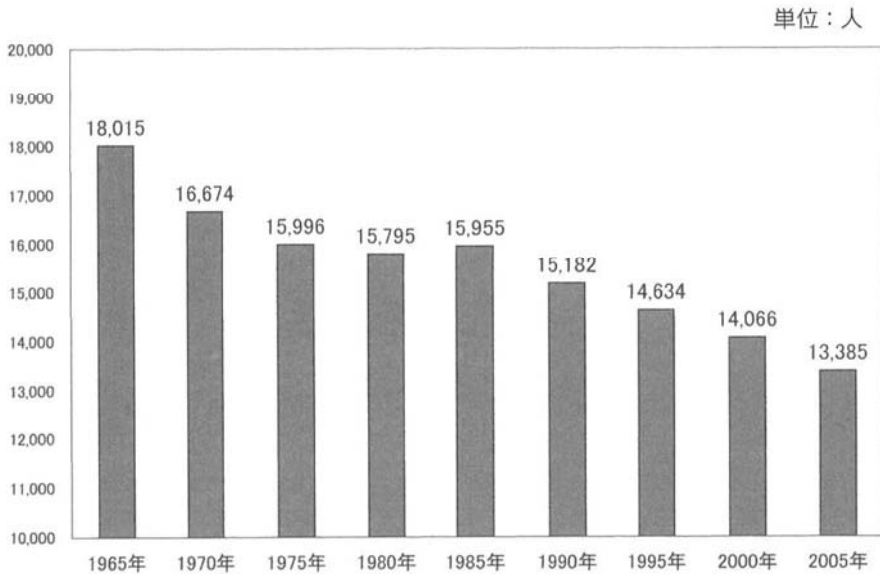
現在知床は、氷が接岸する世界最南端の地で、流水がもたらすプランクトンが糧となり、魚、鳥、動物へと命をつないでおり、多くの希少動物が生息し、自然のままの食物連鎖が形成されている等、生態系、自然景観および生物多様性に優れている観点

から、「世界自然遺産」登録の候補地となっている。

この世界遺産には、文化、自然、複合の各分野があり、それぞれの分野で普遍的な価値をもつ物件を評価し、選出した物件は世界遺産条約(正式名「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」)にもとづいて作成される「世界遺産リスト」に登録されている。

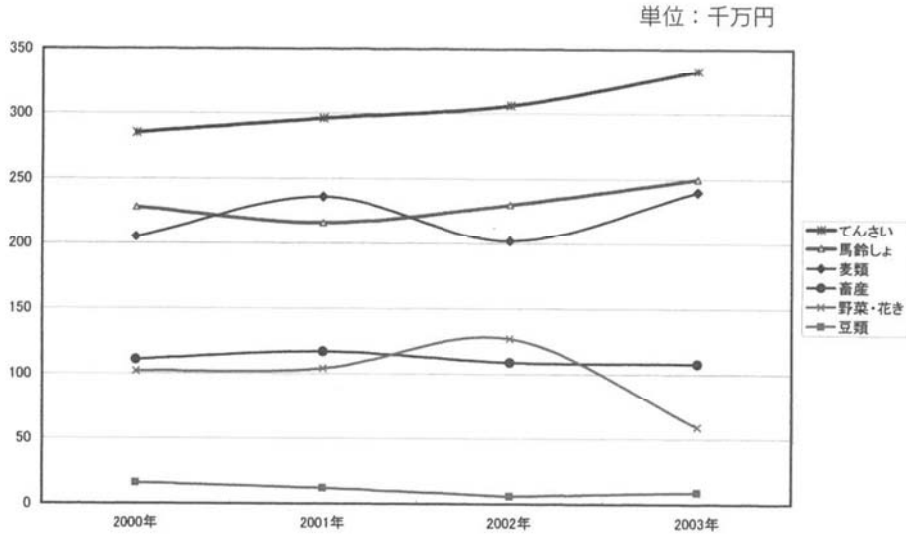
二〇〇三年七月現在、一七六カ国が締約国となり、七五四(五八二の文化遺産、一四九の自然遺産、二三の複合遺産)の世界遺産がリストに登録されている。自然遺産は国内では屋久島(一九九三年十二月登録、鹿児島県、一〇、七四七畝)、白神山地(一九九三年十二月登録、青森県、秋田県、一六、九七一畝)の二件しかない。国外ではグラランド・キャニオン、キリマンジャロ、ガラパゴス、グレートバリアリ

図1 斜里町の人口推移



出所：斜里町資料

図2 農業産出額



出所：農林水産省 生産農業所得統計（2003年）

ーフ等がある。知床の遺産登録の可否は、七月に南アフリカで開かれる世界遺産委員会で決定される。

斜里町農業の概要

データ（二〇〇二年）で町の農業の概要を見よう。販売農家戸数は三七四戸、経営耕地規模別割合は、三畝未満 三・二％、三〜五畝 〇・九％、五〜一〇畝 一・七％、一〇〜三〇畝 五九・一％、三〇畝以上 三三・二％で大規模畑作地帯となっており、農家一戸当たりの平均耕地面積三一・一畝である。

作付面積を見る。総面積一〇、八〇〇畝で主な内訳は、小麦二、六九〇畝、馬鈴しょ三、八二〇畝、豆類一六四畝、てんさい二、八四〇畝、牧草一、三〇〇畝、である。一方、畜産の飼養規模は、乳用牛二、四六〇頭、肉用牛七

〇〇頭、豚二、五四〇頭となっている。

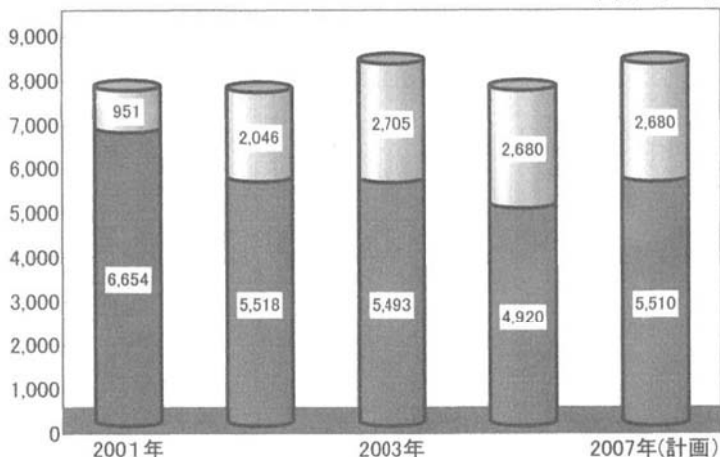
農業産出額（二〇〇三年）は、九九億九千万円（耕種八九億一千万円、畜産一〇億八千万円）である。主なものは、耕種では、小麦二四億円、豆類九千万円、馬鈴しょ二五億円、野菜類五億九千万円、てんさい三三億三千万円。一方、畜産は、五三億九千万円のうち乳用牛三七億八千万円、肉用牛八千万円、豚八千万円である。（図2参照）

種子馬鈴しょの生産と播種床造成栽培システムの導入

斜里町の農業は、小麦・てんさい・馬鈴しょを中心とする畑作経営であり、一部に酪農や野菜を取り入れた複合経営が行われている。このうち馬鈴しょは適正な輪作体系を確立する重要な基幹作物であることから、澁

図3 種子馬鈴しょ面積推移

単位：アール



出所：J A斜里の資料から作成

粉原料用・加工用・生食用を生産している。また種子馬鈴しょは、農協有の原採種ほ農場で生産されている。しかし町内の種子馬鈴しょを確保するには面積が足りないこと、他町村産は運送コストで単価が高くなること、自家更新では適正な栽培管理が行われないため、種子馬鈴しょの円滑な増殖が妨げられている。このため原採種ほ場の製品生産量の増加により、安価で品質の良い種子馬鈴しょの供給を出来るだけ増やし、馬鈴しょ生産者の生産コスト低減が求められている。

このためJ A斜里は二〇〇四年度から「播種床造成栽培システム(ソイル コンディショニング システム)」を導入した。このシステムは、①植付け前に専用機械で土寄せし栽培床を造り、②ほ場に土塊・石などを除去するセパレーターを入れ、③ポテトプランターを使って栽培床中に植付けながら培土をするものである。

今までは、植付け後の中耕除草や仮培土を行うたびに農機具が畑に入るため、機械の重量で培土基部に硬盤層(土塊)が生じ、変形・損傷いもや、雨水がたまり腐敗いもが発生し、収量低下の原因になっていた。また、種子馬鈴しょを収穫する際、収穫機上で土塊や石を取り除く選別作業を行っていたため収穫作業に時間を要していた。

導入の結果、

- ①春作業が短縮した。
- ②収穫作業の能率が向上した。
- ③種子馬鈴しょとして最適な小粒が増加し、総生産量の六割を占めるようになった。
- ④収穫期間が大幅に短縮され気象条件に左右されなくなった。
- ⑤くずいもの発生が例年の半分になった。



ひまわりの会 全員集合



知床 手造りでんぶだんご

同JA営農部では、「今後は、総生産量に占める一五〇g以下の正歩留まりを九割にまで上げ、馬鈴しょ生産農家の要望に「応えたい」と意欲を燃やしている。

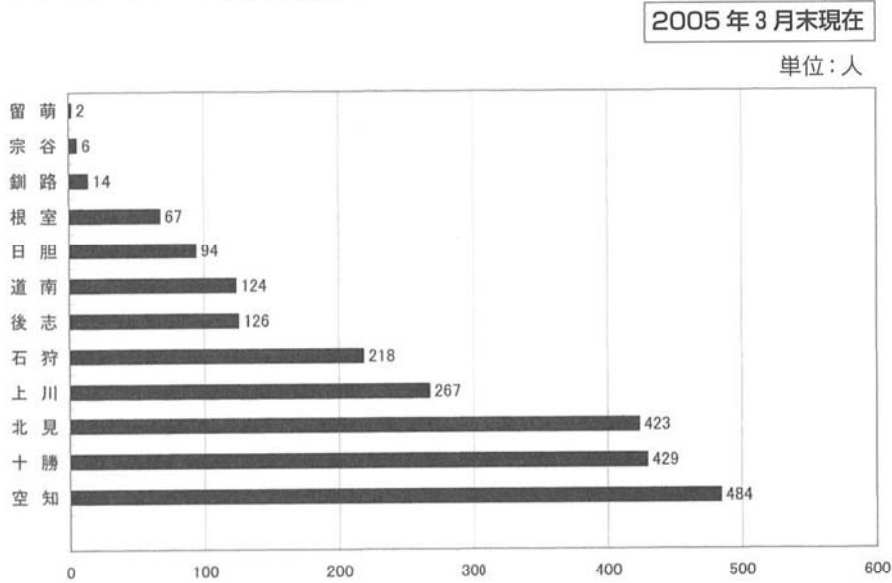
ひまわりの会

地元産の農産物を使い、斜里で道東で一番美味しい澱粉だんごを作ろう、と四人の農家の主婦が二〇〇二年に集り「ひまわり会」を作った。代表は羽田野京子さんである。

四人は親の面倒をみるのに生かせるヘルパー資格取得の研修会（JAヘルパー二級有資格者数、図4参照）で一緒になり、意気投合し「ひまわりの会」を作ろうということとなった。家庭では主婦業と野菜等を生産する農作業を両方こなしながら、その合間をみながら、「知床手造りでんぶだんご」を一年をとおして作っている。

材料は、澱粉・金時豆・グラニュー糖・塩で八〇g×二個入りの冷凍パックである。発売する前には、保存期間の調査や厚

図4 J Aヘルパー2級有資格者数



出所：J A北農中央会資料より作成

さをどの位にするか、など色々研究した結果、今販売している形となった。でんぶんだんこのシールは家族が撮影した写真を元にして作成した。四人でこのひまわり会に集まり和気あいあいのなかでんぶんだんごを作るのが至福の時間である」と四人は嬉しそうに語ってくれた。

まとめ

一八八七年に鈴木養太による開拓の轍が入って以来、豊かな自然をベースに活力ある産業の振興を目指して斜里町は発展してきた。

限りある水産資源を守り、つくり、育て、獲る漁業や国際化を視野に入れた事業展開を実施しながら農業の活性化、農業経営の安定化を目指す農業。さらに近隣の三町と連携し多機能力ードシステムで消費者の利便性

をサービスすることで地元購買力を高め、商店街を活性化することを目指すオホーツクカード事業を実施する商業など町民を巻き込んだ産業活動で、斜里町は豊かな明日の町作りを実践中である。

さらに交流活動として、二〇〇三年に斜里町は西表国立公園を擁する沖縄県竹富町と姉妹町盟約三〇周年を、そして青森県弘前市と友好都市盟約二〇周年を迎えた。これまで児童交流を始めとして文化、スポーツ、産業交流の輪が広がってきている。

先に紹介した知床の世界自然遺産の登録決定が目睫の間に迫っている嬉しい時期に、農業を言む各産業分野で次代に繋がる諸活動を見聞し、益々発展する斜里町を力強く感じた。

レポーター

北海道地域農業研究所 専任研究員

川原 和雄